

1 審議会名	上田右岸地域協議会
2 日時	令和5年3月20日 午後1時30分から
3 会場	西部公民館 第5学習室他
4 出席者	天田委員、上原委員、永本委員、小川委員、金井委員、窪田委員、駒崎委員、小林委員、清水悟委員、竹内委員、田中委員、平澤委員、宮下委員、柳澤委員、渡辺委員
5 市側出席者	【事務局】星野中央地域振興政策幹、小山西部地域振興政策幹、横澤豊殿地域自治センター長、馬場豊殿地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、近藤地域内分権推進担当主査、唐澤地域内分権推進担当主査、腰原地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事 【都市計画課】宮入都市計画課長補佐、中村景観緑化係主任 【生涯学習・文化財課】谷口文化財保護担当主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年3月29日

## 協 議 事 項 等

## 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項(全体会)

## (1) 市からの報告等

・上田市歴史的風致維持計画について【都市計画課、生涯学習・文化財課】

都市計画課及び生涯学習・文化財課から資料を基に説明

以下、質疑応答

(委員)歴史的風致と言えば、大屋駅ができてから100年以上が経過する。明治時代に岡谷市、諏訪市から生糸を運び、横浜経由でパリ、ロンドンに渡った。この地域の絹が世界に渡って、大きくクローズアップされていた。山本鼎が農民美術をやって100年が経つ。北原白秋を含めて数々の有名人が大屋駅を降りた。建物は建立から100年経ち、時計もまだ動いている。そういうものを含めて計画を考えてほしい。このままだと今までの歴史が無くなってしまわないか。

(生涯学習・文化財課)今回の計画の中身については、国土交通省の認定もあるのでこちらの意見を全て入れられたわけではない。大屋駅については、全国初の請願駅であり、駅舎が近代の趣を残しており貴重であることは承知している。しなの鉄道が所有している施設であるため難しい部分があるが、時計などポイントポイントの動かせるものだけでも残して伝えていくことは大事だと考えている。

(委員)歴史的風致の重点地域を設定して取り組むのであれば、観光業とも連携して進めてほしい。

特に、上塩尻地区で歴史的建造物自体の所有者が個人のため、無くなっているものが多い。海野宿のように国から補助をいただきながら生活できるような方向性も考えていただかないと維持管理は難しい。

(生涯学習・文化財課)塩尻地区に関しては北国街道沿いを含めて、良い建物が残っているが、年々数が減っているのは悔しいところである。海野宿のような「重要伝統的建造物保存地区」といった形にするのは、住

民の皆さんの同意が必要なため難しい。

今は調査をして、街並みとして一体的には無理だとしても、登録有形文化財としてポイントポイントで進めて残していきたい。残せるところは残して、結果的にポイントが増えていって、街並みのようになっていければと思います。

- ・住民自治組織交付金要綱及び活力あるまちづくり支援金の一部改訂について（報告）

市民参加・協働推進課から資料を基に説明

#### 4 協議事項(分科会)

上田右岸地域の課題について

分科会ごとに分かれて意見交換

##### 【第1分科会：教育・福祉・子育て】

調査研究テーマについて協議

交通政策課から「公共交通及び自家用車のコスト」、「タクシーにおけるサブスクリプション（定額制サービス）」、「住民主体での移動手段の確保の取組」について、高齢者介護課から「住民主体の移動サービスの構築」、「長野市における福祉有償運送」について説明を受ける。

以下、質疑応答及び委員からの主な意見

- ・オレンジバスはどのような位置づけの交通手段か。

→道路運送法による許可に基づく輸送。市街地循環バスも同様である。

・諏訪市で実験的に行ったタクシーの定額サービス「ジェンロンタクシー」は利用者7人とのことだが、使いつらいようなことがあったのか。

→利用者の7人は、定額以上のタクシー利用が想定され、実際に3人が定額以上の利用があった。使いつらいような原因があったかは不明である。

・デマンド交通は事前の予約、時間通りに駐車場所に出る必要などがあり利用者が延びないということもある。乗合の路線バスだと時間が決まっているので、生活のリズムの中に取り入れやすいということはある。

・御代田町の事例では、行先が決まった場所になっているので使い勝手が悪いようである。ボランティアによる（許可を要しない）輸送支援だと、いろいろなところに行けるのではないか。バスは停留所まで行かないといけない。ボランティアによる支援の方が使いやすいのではないか。

→少人数のグループによる輸送支援から始める方がよいのではないか。万が一の事故の場合も心配されるので利用の承諾は本人と家族からも得ている。諏訪市の実験事業では、どこへでも行ってよいとなると、限られた台数の車が特定の者の利用に偏ってしまうので、降車場所も特定したと聞いている。いろいろなニーズがある。自治会内のニーズ調査で、移動支援だけでなく生活支援も含めて、ニーズを拾ってできることから始めた方がよい。

##### 【第2分科会：公共施設・事業】

調査研究テーマについて協議

- ・図書館について、図書館職員に塩尻市視察へ同行してもらえるか確認。

・豊殿地域の市営住宅は相当古い。視察をしながら住宅課の担当職員に説明いただいた方がよいのではないか。

- ・上田市災害ハザードマップが新しくなったが、河川の見直しにより、平屋の西部公民館は洪水時の避難場

所としては「×印」である。垂直避難ができないことが理由であると危機管理防災課へ確認をした。体育館を避難する施設と捉えるならば、提言の内容も変わってくるかもしれない。

**【第3分科会：建設・産業】**

調査項目の絞り込みのため意見交換

- ・公共交通、道路整備、少子高齢化社会への対応、通学路整備 等々
- ・上田市の公共交通政策の現状を知りたいため、市職員に説明してもらいたいので次回の分科会に参加をお願いしたい。

5 その他

次回

日時 4月24日(月) 午後1時30分～

場所 豊殿地域自治センター

6 閉会